

フードバンク利用による生活の質（QOL） への影響に関する分析

北九州市立大学 学生会員 小西 彩音
正会員 松本 亨

1. はじめに

本来はまだ食べられるが廃棄される「食品ロス」が社会問題の一つとなっており、日本国内の食品ロスは年間 642 万トン（平成 24 年度）とされている¹⁾。

この問題に対処する手段のひとつとして、「フードバンク」が注目されている。食品関連企業や農家、個人などから無償で提供された、品質には問題がないが市場では販売できないような食品を、必要としている福祉施設や個人、団体へ無償で配る活動である。この活動は海外では既に 40 年以上前から存在しているが、日本で行われるようになったのは 2000 年以降であり、全国では 12 団体の活動が確認されている²⁾。福岡県内では、特定非営利活動法人フードバンク北九州ライフアゲイン（以下、FBK）が 2013 年に設立し活動しているが、その歴史はまだ浅い。フードバンクの評価に関しては、著者らが、LCA を用いて環境負荷削減量の定量評価を行った³⁾。本研究では、フードバンクからの食品配給先である施設や個人を対象に、フードバンクの利用による生活の質（QOL）への影響評価を行うことで、フードバンク活動を多角的に評価することを目的とする。

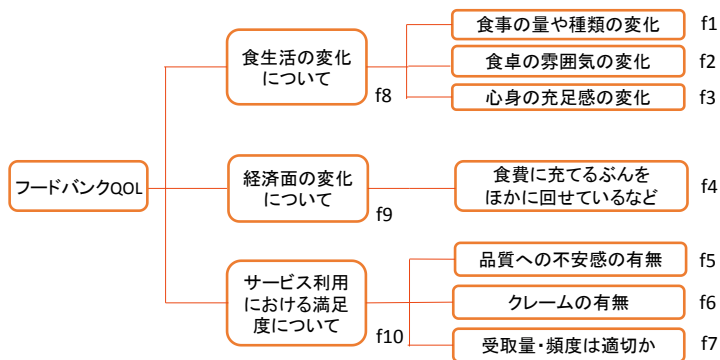


図 1 フードバンク利用の QOL 因子

2. 評価方法

QOL に関する既往研究⁴⁾を参考に、フードバンク利用に関する QOL 因子を作成した（図 1）。まず、「食生活の変化について」「経済面の変化について」「フードバンクサービス利用における満足度について」の 3 つに分類し、さらにそれぞれの因子から複数の因子に細分化させる。この図をもとに、フードバンク利用に関する QOL 評価を行った。

評価にあたっては、FBK が実際に食品を配給している福岡県内の福祉施設 44 件、個人 40 件を対象にアンケート調査を行った。実施期間は 12 月 17 日～28 日である。アンケートは施設用と個人用の 2 種類に分け、主にフードバンクを利用する前と後の変化を尋ねた。質問に対して「1.あてはまらない、2.あまりあてはまらない、3.どちらとも言えない、4.少しあてはまる、5.あてはまる」という 5 段階の選択肢を設定し、あてはまる数字を選択してもらう方法で実施した。その数字から平均値を出し、数値が 5 に近いものほど QOL

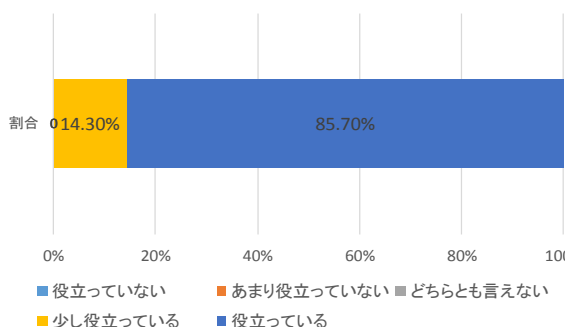


図 2 受け取る食品は生活上役立っているか

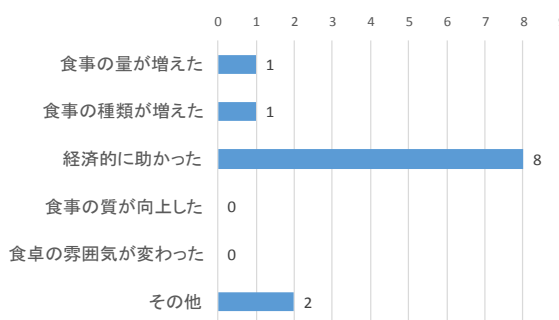


図 3 どのような点で役立っているか

が高く、1に近いものほどQOLが低いとした。

3. 分析結果と考察

本稿では、現時点で回収した調査票8件を集計した。これらはすべて個人を対象としたものである。回答者の平均年齢は41.3歳、7人が女性で1人が男性であった。一人世帯が1世帯、両親と子供、片親と子供の世帯が3世帯ずつ、その他が2世帯であり、8世帯中6世帯に小学生の子供がいた。フードバンクの存在を知ったきっかけは、フードバンク職員と知り合いだったことが37.5%と最も多かった。全員がフードバンクから受け取る食品が生活に役立っている、または少し役立っていると回答し(図2)、特に経済的な面で役立っていると実感していることがわかった(図3)。

ここで、図1の因子図をもとに、アンケート結果から各因子のQOLの値を算出した(図4、図5)。細分化した因子の値は、f1=3.25、f2=4.25、f3=3.33、f4=4.38、f5=4.25、f6=4.50、f7=4.75となり(図4)、大分類の因子の値は、f8=3.47、f9=

4.38、f10=3.84となった(図5)。図4、図5より、いずれの因子も標準値(=3)を上回っていることがわかる。図4より、f10フードバンク利用満足度に関連した因子f5、f6、f7と、経済面の変化f4が高得点であることが見て取れた。f1食品の種類の変化やf3心身の充足感の変化は相対的に得点が低く、フードバンク利用前後でのQOLの差は、他の因子と比較して大きくないことが見受けられた。配給されている食品は、パンや米などの主食やスープ、バナナなどが主で、種類は豊富であるとは言えないことなどがこの背景にあると考えられる。全体をまとめたQOL値は4.11であり、フードバンクを利用することは、QOL向上に対して良い影響を与えているといえる。

4. まとめと今後の課題

フードバンク活動を多角的、定量的に評価するために、本研究ではフードバンクの利用が食品配給を受ける側のQOLにどのような影響を及ぼしているかどうかという観点から分析した。アンケート調査を実施し、その結果をQOL値として定量化した結果、フードバンクを利用する人々の生活の質が向上していることがわかった。このことはフードバンク活動が、利用者に好影響を与えていることを示しているといえる。アンケート調査を進めてより多くのサンプルを取得することで、より信頼性の高い結果を得ることが課題である。

参考文献

- 1) 農林水産省：食品ロスの現状平成24年度推計値 http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/
- 2) 三菱総合研究所：平成21年度フードバンク活動実態調査報告書, 2010
- 3) 松本亨, 邊見亮太：食品ロスの発生要因分析と有効利用策のライフサイクル評価, 第26回廃棄物資源循環学会研究発表会, 2015
- 4) 三村泰広, 川本義海, 東隆司, 本田義明：QOLによる地方都市圏の高速道路の評価に関する研究, 土木学会研究・講演集, Vol.32, 2005

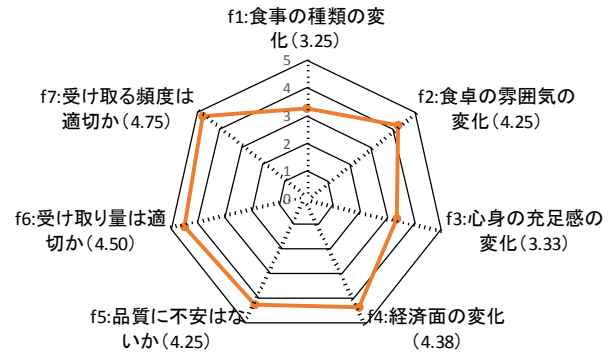


図4 各因子(f1~f7)のQOL値の比較

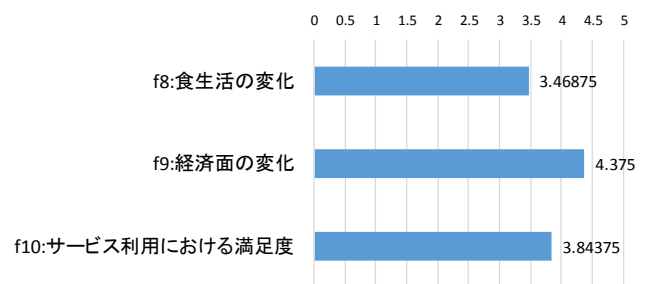


図5 各因子(f8~f10)のQOL値の比較